

LanScope **Cat** LanScope **An**  
Success Story

イー・ガーディアン株式会社 様

学校法人稲置学園 様

株式会社エスケイエム 様

オイシックス・ラ・大地株式会社 様

株式会社沖縄銀行 様

株式会社コーエン 様

社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会 様

株式会社ダスキン北陸 様

株式会社玉越 様

株式会社ディー・エヌ・エー 様

岐阜県 土岐市 様

どろんこ会グループ 様

北陸信用金庫 様

株式会社前川製作所 様

宮古島市 様

株式会社森創 様

[五十音順]

 LanScope シリーズ

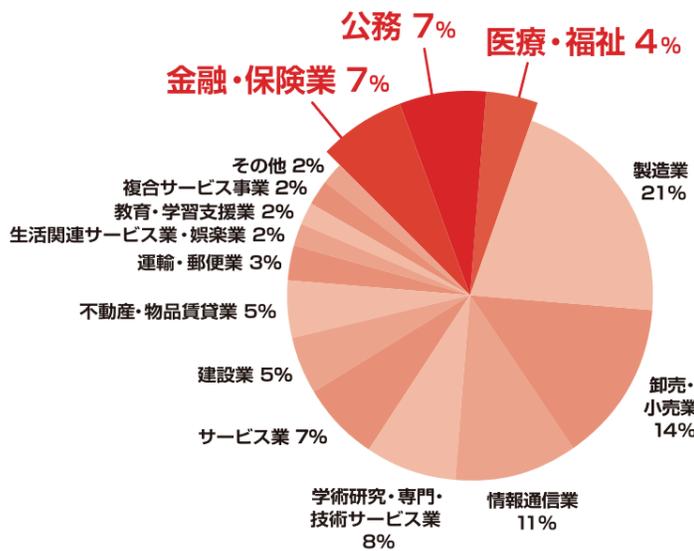
**9** 業種 **16** 社の成功事例

# LanScope シリーズの 導入事例



業種・規模を問わず幅広い導入実績を誇ります

東証一部、二部の上場企業のうち、4社に1社は LanScope Cat を導入。  
また、セキュリティ要件の高い金融機関でも3行に1行、  
さらに官公庁・自治体・医療機関などの利用実績も増えています。



官公庁導入数	病院/医療導入数	金融/保険導入数
459機関	284機関	499ヶ所

東証一部	東証二部	マザーズ	JASDAQ
530社	108社	44社	147社

Pマーク取得企業…1,147社

ISO27001/ISMS 取得企業…540社

2017年8月現在

## 生活関連サービス/娯楽業 04 05

株式会社ディー・エヌ・エー 様  
株式会社玉越 様

## 製造業 12 13

株式会社前川製作所 様  
株式会社森創 様

## 情報通信業 06

イー・ガーディアン株式会社 様

## サービス業 14 15

株式会社エスケイエム 様  
株式会社ダスキン北陸 様

## 卸売業/小売業 07 19

オイシックス・ラ・大地株式会社 様  
株式会社コーエン 様

## 教育 16

学校法人稲置学園 様

## 金融業/保険業 08 09

株式会社沖縄銀行 様  
北陸信用金庫 様

## 医療/福祉 17 18

社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会 様  
どろんこ会グループ 様

## 公務 10 11

岐阜県 土岐市 様  
宮古島市 様

LanScope シリーズは全国1万社以上のお客様にご導入いただいております。  
これまでにいただいた導入事例をご紹介します。  
MOTEXは今後もお客様の声を真摯に受け止め、製品やサービスの向上に努めていきます。



# 株式会社ディー・エヌ・エー 様

## DeNAを支える “攻める情シス” の取り組みに迫る！



https://dena.com/jp/

**業種** 生活関連サービス業／娯楽業

**規模** 連結：2,475名（単体：1,341名）  
（2018年3月末現在）

### introduction

自分たちを「永久ベンチャー」と表現し、これまでにゲーム、Eコマース、エンターテインメント領域、そして最近ではインターネット上のサービスだけでなく、オートモーティブ、ヘルスケア、スポーツなど、幅広い領域に事業拡大している株式会社ディー・エヌ・エー（以下、DeNA）。

そのDeNAがこの度MOTEXが提供する統合型エンドポイントマネジメント「LanScope Cat」の導入を決めた。その取り組みと導入の経緯について、IT戦略部の司令塔である成田氏とLanScope Cat導入を推進した名和氏にお話を伺った。

### LanScope Cat

**管理台数** 3,500台

**保有機能**  
IT資産管理・操作ログ管理・デバイス制御

経営企画本部 IT戦略部 部長 成田 敏博氏（右）  
IT戦略部 技術推進グループ グループマネージャー 名和 彩首氏（左）

### AI活用を進めるDeNAの情シス部門変革

1999年3月にインターネットオークションを手がける会社として創業したDeNA。モバイルを中心としたインターネットサービスへと業容を変化させ、最近ではスマホ向けのモバイルゲームを主軸に、多岐

にわたってサービスを展開している。長期経営指針にAI活用を掲げる同社では、社内ITを担う情シス部門の役割もソフトさせている。そんな同社はWindows OSの脆弱性管理の課題解決のため、IT資産管理ツール導入の検討を開始した。

### 「わかりやすさ」「連携性」などCat選定の決め手となった5つのポイント

同社は、ゲーム事業におけるアプリ開発など、ガラケー時代から業務にモバイルを活用してきた。モバイルの業務活用が増え、また、ネットワーク接続機能を備えた機器が増えていく中で、IT資産管理の面では、「Windows OSの脆弱性管理」に課題があったという。

名和氏「たとえば、Windowsアプリケーションに脆弱性があるって、早急に対応が必要なときに、これまではユーザーにアナウンスし、対象者にアップデートしてもらう流れでした。対応はユーザー任せで、その状況を管理者がリアルタイムに把握できていませんでした。また、データは手動で入力していたので、仮にOSがアップグレードされても、リアルタイムで情報が更新されているわけではなく、また、セキュリティパッチの対応状況も管理者から把握できなかったため、ユーザーにアップデートのお願いを延々とアナウンスする状況が続いていた」と名和氏。

そうした課題に対応するため、同社では2017年11月頃より、エンドポイントマネジメント製品の導入検討を開始した。当初は5、6の製品候補をピックアップし、ツールの使い勝手などを検証しながら選定を進めていった。具体的な選定のポイントは次の5点だ。

1つめは「直感的な管理ができるか（わかりやすさ）」だ。たとえば、設定がオンなのか、オフなのかというような直感的なUI、このグループに対して、この設定を適用したいというような設定の柔軟性などのポイントだ。「LanScope Catは専門的な知識が多少あれば、直感的に操作できる点が良いと思いました」と名和氏は述べる。

2つめは「内製の資産管理ツールとの連携性」だ。資産管理ツールとの連携はAPI経由で行うが「他のツールはDBを公開していなかったり、APIに対応していなかった。LanScope Catは、DBのテーブル情報が全て公開され

ており、API連携に問題がなかった点が決め手になった」と名和氏。

3つめは「セキュリティの課題」だ。セキュリティパッチの適用は、Windowsパッチを管理・配信するWSUS（Windows Server Update Services）から社員にアナウンスをし、アップデートは手動で行っていた。

名和氏「社員側でアップデートを行うだけでなく、LanScope Catには、管理者からプッシュ対応で（裏から自動的に）更新することができる機能があり、更新にかかる手間やコストを削減でき、かつ脆弱性が防げる効果が期待できます」

4つめは「海外対応」だ。現在、中国に数百台、韓国に数十台ほどのPCがあり、今後はこれらも日本から集中管理を行う予定としている。そのため、海外OSに対応しているかどうかを選定ポイントの1つとなった。

名和氏「他社ツールの中にはUnicode対応していないものもありましたが、一方LanScope Catは随分前に対応していること、すでに海外拠点を日本から管理しているという事例もあったので安心でした」

そして、5つめは「新たな要件への対応（将来性）」だ。LanScope Catは、カスタマーの声が製品開発にフィードバックされやすい印象を受けていると名和氏は述べる。名和氏「新たな要望、要件が出てきたときに、ヒアリングを含めた対応やサポート体制が手厚いという点で信頼できると感じました」

こうしたポイントが決め手となり、2018年3月に、統合エンドポイントマネジメント製品としてLanScope Catの導入が正式に決定した。一部の部門からスモールスタートで導入を進め、現在は、7月中をめざし、全社展開を段階的に進めているところだ。



# 株式会社玉越 様

## 多層防御ではなくエンドポイントをシンプルに守る！

### インシデント調査の工数が4分の1に激減。



http://www.tamakoshi.com/

**業種** 生活関連サービス業／娯楽業

**規模** 221名（2018年3月1日現在）

### introduction

「毎日の心と身体を癒し、明日への活力となるエネルギーを生み出せるような、『街のオアシス』を提供すること」を理念とし、愛知県下でパチンコ・スロット遊技場を8店舗展開している株式会社玉越。より地域に寄り添えるよう、店舗のデザインや活動方針などは各店舗に委ねているが、一方でセキュリティレベルや資産管理、内部統制などに課題があり10年前にLanScope Catを導入。最近では外部脅威対策を目的に「プロテクトキャット」を追加導入し、セキュリティ強化を図っている。その目的や経緯、運用についてお話を伺った。

### LanScope Cat

**管理台数** 100台

**保有機能**  
IT資産管理、操作ログ管理、WEBアクセス管理、デバイス制御、マルウェア対策

管理統括部 総務課 情報管理係 主任 村上 風馬氏（右）  
管理統括部 総務課 情報管理係 酒井 博規氏（左）

### 10年前に内部不正対策を目的にLanScope Catを導入

本社と各店舗で100台のPCがあるが、本社からは目が届かない環境であること、また故意でないにしても何かあった際、何もわからないという状況を課題視し、約10年前に「ログ取得（操作ログ管理機能）」を目的にLanScope Catを導入。しかし数年前から、高度化・多様化する外部脅威に対して、会社・従業員、そしてお客様をどのように守っていけばいいのかがということが新たな課題となっていた同社。ファイヤウ

### エンドポイントをシンプルに守る！

アンチウイルスソフトの変更を検討する中で、プロテクトキャット（CylancePROTECT）の存在を知り、具体的な導入を検討するためにPOC（導入前検証）を実施。当時導入していた既存アンチウイルスも含め、複数製品での検知比較を行ったところ、プロテクトキャットの圧倒的な検知率を目の当たりにし、会社へ上申することを決めたそう。

「当時使っていた既存アンチウイルスソフト（最新バージョン）とプロテクトキャット（1年前のバージョン）に対し、最新の検体100個を実行させてみました。するとプロテクトキャットは一瞬で全てを検知したのに対し、既存製品は複数の感染が確認され、かつCPUが100%になって固まってしまい、検証を中断せざるをえない状況でした。（酒井氏）」

「費用面では、これまでの既存アンチウイルスソフト単体と比

### インシデント調査の工数が4分の1に激減

すでにLanScope Catを導入していた同社。配布機能を使ってプロテクトキャットのエージェントを配布。全台に入ったこともCatで確認でき、インストールはすぐに終わったそう。プロテクトキャットを導入してからは、感染が防げるようになっただけではない。

「導入前はインシデントが発生すると、原因調査に毎回3時間から半日かかっていた。さらに、その調査をしても原因特定に至らない時もあり、具体的な対策をフィードバックできずにいました。（酒井氏）」

「CylancePROTETだけでも導入することはできますが、LanScope Catのログと連携できることは大きなメリットでした。調査の工数を削減できるだけでなく、明確に原因を特定できる点は大きな優位点だと感じています。（村上氏）」

オールや既存アンチウイルスソフトなどの対策はもちろんしていたが、そんな時に、社内のPCがランサムウェアに感染するというインシデントが発生。「使用者が異変に気づき、ネットワークからPCをすぐに切り離してくれたので、想定していた感染時の最悪の事態は免れましたが、やはり今の対策だけでは限界があると痛感したアクシデントでした。（村上氏）」

製品名	バージョン	検知率	CPU
プロテクトキャット <small>(CylancePROTECT)</small>	1年前のバージョン	100% (100/100)	20%
製品A	最新バージョン	測定不可	100%

▲同社が行ったPOCの結果（最新の検体100個が対象）

較するとプロテクトキャットはかなり高く見えてしまいますが、すでに既存アンチウイルスソフトだけでは守れないことは明白なので、他のツールを組み合わせる複数製品導入する必要があります。実際にサンドボックスやUTMなどの多層防御も検討しましたが、そうなるも価格差はさほどなく、むしろ製品によっては多層防御の方が高いケースもありました。加えて、複数製品を入れた場合はコンソール画面が異なることやサポートなどすべてバラバラになり運用の負荷が上がってしまいます。結果、プロテクトキャットの方が良いという結論になりました。（村上氏）」

「一般的にセキュリティを強化すると利便性が下がったり、ユーザーに負担がかかると言われていますが、プロテクトキャットはウイルス対策ソフトが入っているなということを意識させない点がすごいですね。（村上氏）」

プロテクトキャットを導入するまでは、インシデントが発生する度にその対応に追われ、通常業務を圧迫していたが、導入して1年、そういった負担が激減したことが何よりの導入効果だと両氏は口を揃える。



# イー・ガーディアン株式会社 様

## “インターネットの守護神”が考えるセキュリティの秘訣は、「自ら変化を取り入れること」

導入の決め手は「ディープラーニング」。説明できないからこそ突破できないのが最大のポイント。

### 高い検知率とインターネット非接続環境への対応

従来からLanScope Catを活用したPC操作ログの取得、USB記憶媒体の使用禁止など様々な対策は行っているが、ネット監視という業務では不正と思われるサイトを閲覧することも多く、危険と分かっていても閲覧を禁止することはできない。そんな中、一般に知られているように2015年頃からスピアフィッシングが増え始め、これまでの対策だけでは防ぎきれない可能性が有ることに危機感を募らせていたと高橋氏は振り返る。

「数年前から既存のアンチウイルスソフトの検知率は一般的に3~4割といわれていましたし、次に出てきたふるまい検知についても”ふるまわない”と検知できないことに疑問視していました。ちょうどその頃にエムオーテックスさんのセミナーでエンドポイントの新たな外部脅威対策ソリューションがでるという案内を頂き、すぐに導入の検討を始めました。」(高橋氏)

イー・ガーディアンでは、インターネット上に散在する画像の中に不適切なものがないかを自動で判別することができる

### 一度インシデントが起こると復旧費用は最低でも1千万円。それを考えると、プロテクトキャットは安い!

「我々の仕事はお客様の代わりに不正なサイトを見ることが仕事です。ですから、怪しいサイトは見ると、リンクをクリックするな、添付ファイルは開くな、では業務が止まってしまうわけです。感染してしまった場合に直前に何をしていたのかと確認をしても、通常の業務をしていました・・となるわけです。また最近では広告を表示しただけで感染するタイプもありますので、感染しても原因特定が出来ないという状況でした。」

プロテクトキャットはマルウェアを実行前に検知し隔離するだけでなく、Catで取っているログを見ることで、感染した直前の操作を確認することができるようになったことは大きいですね。製品によってはシステムログを含め膨大なログを取得するものもありますが、Catのログは人の操作に特化しているというのも非常にありがたいですね。ほとんどの場合が人の操作に起因するものですから。」(高橋氏)

一般的に不正ソフトウェアの侵入を許すとその調査を外部に委託した場合、初動としてどんなマルウェアか、どの端末に感染しているのかを調べるだけで最低500万円はかかってしまう。それだけではない。

「ROKA SOLUTION」というサービスを提供している。ディープラーニングを用いたこのサービスは東京大学と共同で研究開発したもので、検知率は99.5%以上だという。ディープラーニングの技術の凄さをすでに体感していた高橋氏は、プロテクトキャット(CylancePROTECT)のセミナーに参加しアンチウイルスの世界でも同じようにディープラーニングを使ったソリューションだということで、「コレだ!」と思ったという。

ディープラーニングは極論、「なぜその結果になるのか」を言語的に説明することはできない。故にディープラーニングを使った製品と言ってもなかなか理解を得ることが難しいが、自社製品を通じてそのあたりを理解していた高橋氏だからこそその判断ができたのだろう。

「パターンマッチは説明できるが故に突破できる。逆にディープラーニングは説明ができない。故に突破できないということだと思います。」(高橋氏)

「例えば20台の感染がわかり何らかの方法で原因が特定できたとしても、それらのパソコンはおそらく初期化することが必要になるため、その間業務停止せざるをえません。ツールを使い1台1時間としても20時間の作業となります。おそらく2名で2日間対応が必要で、対象がファイルサーバーだった場合は、バックアップを戻す作業だけで最低半日、設定などの作業を考えると数日はかかることが想定できます。調査にかかる初期費用に加え、作業費や人件費、業務停止期間の機会損失、またインシデントが起こると対応のために幹部を含めたミーティングなども行う必要がでてきます。これらの費用を換算するとたった一つのインシデントから最低でも1千万円近くなり、それがさらに企業の規模に比例して大きくなる。経営に与える金額のインパクトは限りなく大きいですね。」(高橋氏)

システム導入となると、導入費用に目がいきがちだが、高橋氏はここまでしっかりと想定できているからこそ、積極的な投資に踏み切れるのだろう。今後は、これまで使用していたアンチウイルス製品をやめプロテクトキャットだけの運用に切り替えていく予定だという。



https://www.skm-tco.jp/index.html

業種 情報通信業  
規模 820名 (2016年9月末日現在)

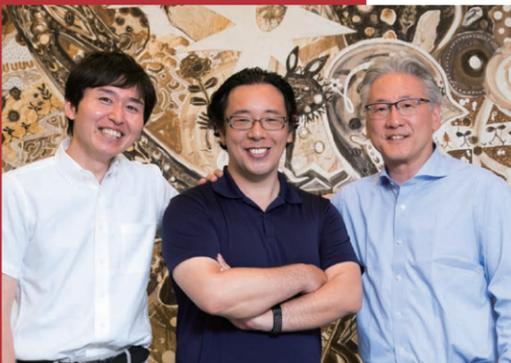
### introduction

Build Happy Internet Life. インターネットの安心・安全を実現すべく、掲示板等の投稿監視サービスからスタートしたイー・ガーディアンは、2016年9月に東証マザーズから東証一部へ市場変更。現在ではカスタマーサポートサービスや広告オペレーション事業など積極的な事業拡大を行い、「総合ネットセキュリティ企業」を目指している。そして、お客様のインターネット環境を守るためには、同時に自社のセキュリティを守ることが事業継続を行ううえで必須の課題である。そこで、エムオーテックスが2017年7月に提供を開始した次世代型マルウェア対策「プロテクトキャット Powered by Cylance」の導入を決断。その経緯についてお話を伺った。

### LanScope Cat

管理台数 860台  
保有機能 IT資産管理・操作ログ管理・マルウェア対策

代表取締役 高谷 康久氏 (左)  
情報システム部 ディレクター 高橋 輝雄氏 (右)



# オイシックス・ラ・大地株式会社 様

## 機能ではなく“運用”で選んだらLanScope Cat!

3社の経営統合で、セキュリティもより高いレベルを実現。

### 機能比較ではなく運用比較でLanScope Catを選定

昨年のオイシックスと大地を守る会の経営統合以降、社屋の移転はもちろん、あらゆるシステムの統合を担っているのがシステム本部だ。実は経営統合前、IT資産管理・セキュリティツールについては、3社3様、全て異なるツールを使っていたそうだが、どの様に一本化していったのだろうか。

「大地を守る会は、14年前にLanScope Catを導入し、前任者から引継ぎ担当をしていました。セキュリティツールを選択するにあたり、まず比較表を作成して検討をしましたが、なかなか決まりませんでした。そこで、改めて自分たちがツールを使って何をしたいかの目的で考えることにしました。そうすると、どういった運用ができるのかを焦点にそれぞれのツールの運用状況について話し合うことになりました」と当時を振り返るのは、システム本部 基幹システム部 大地を守る会基幹開発セクション 紺野康氏だ。

「私はオイシックスで、別ツールの担当をしていました。そこで実際LanScope Catを触ってみました。使い勝手」が

### 正確かつ効率的なIT資産管理を実現

統合前、資産管理はEXCEL運用を併用していた同社。しかしこの統合をきっかけに、資産管理はLanScope Catでやるという運用に切り替えたそう。これにより、管理工数は大幅に減ったがそれだけでなく、上長から「このソフトがいくつか入っているのか」という問い合わせを受けても、「この部門に〇本入っています」とすぐに、しかも正確に回答できるようになったという。

1社の時は管理端末はそれぞれ400台ほどだったが、統合したことで管理管理端末の台数も3倍となった。そうすると400台の時の運用では回らないことも出てきているため、良いところを残し

### 3社統合でセキュリティもより高いレベルへ

すでに統合されているオイシックスと大地を守る会のPCへの展開は終わり、次は10月に統合されるらでいっしょぼーやへの展開が控えている。

3社が統合されることで、システム基盤部の人員も増え、7~8名体制になるという。それぞれのやり方があるものを統合するのは大変だが、それぞれの良いところを活かした新たな運用を確立することで、これまでよりも高い運用レベルを目指す同社。「管理」というフェーズから「運用フェーズ」への



https://www.oisixradaichi.co.jp/

業種 卸売業 / 小売業  
規模 677名 (2018年10月1日現在)

### introduction

2017年10月にオイシックスと大地を守る会は経営統合し、「オイシックスドット大地」として生まれ変わった。そして2018年7月には「オイシックス・ラ・大地株式会社」と社名を変更し、10月には「らでいっしょぼーや」と経営統合。それぞれの強みを生かして、「より多くの人が良い食生活を送ることができる社会」を目指し、デジタルマーケティング、生産者ネットワーク、物流面などのシナジーを創出し、高付加価値な食品宅配マーケットのけん引を目指している同社。この経営統合では、経営面だけでなく様々なシステムなどの統合が進んでいる。今回はそのシステム統合を担っているシステム本部の3名に、IT資産管理ツールとセキュリティ対策の統合についてお話を伺った。

### LanScope Cat

管理台数 934台  
保有機能 IT資産管理、操作ログ管理、WEBアクセス管理、デバイス制御

システム本部 システム基盤部 ヘルプデスクセンター  
マネージャー 佐々木 孝行氏(中央)  
システム本部 基幹システム部 大地を守る会基幹開発セクション  
紺野 康氏(右)  
システム本部 基幹システム部 黒木 健吾氏(左)

よく、痒いところに手が届くというのが印象でした。特に、USB制御とログ検索については、これまで苦労していた分、すごくいいなと思いましたね」と佐々木氏は語る。

USB制御の運用については、基本的に読み取り専用の設定にしておき、申請をあげると一時的に解除するという運用を行っているが、オイシックスではこれまで一時的に解除をする、シートにそれを記入し、また手動で禁止をかける必要があり、かなり手間がかかっていた。しかしLanScope Catでは、一時許可をする際、合わせて期限を設定することができるので、うっかり戻し忘れて穴が空いてしまうということもない。またログ検索においては、LanScope Catの場合、最大5年分のログを保存し、それらを串刺し検索をすることができるが、別ツールは古いログは数ヶ月単位でCSV出力を行う必要があったそう。

このように運用を中心に考えていった結果、「できる・できないでいうと皆できるとなってしまいますが、“本気”で何かをしようするとCatが強いという結論になりました。」と紺野氏は語る。

つつ、大規模管理にも耐えられる新たな運用を模索しているという。現在、ISMS取得に向け取り組みを進めている同社は、管理だけでなく、社内のセキュリティ規定についても見直しを行っている。

「それぞれの会社でルールがあり、ルールが異なるため運用のギャップはまだあります。しかし、まずは守るべきところを局所的にしっかり守るというスタンスで折衷案を模索しているところです。」とシステム本部 基幹システム部 黒木 健吾氏は語る。

ステップアップについて、紺野氏は次のように語る。

「LanScope Catは、導入したからといって売りが上がるわけではありませんが、大切な個人情報を扱っておりますのでセキュリティへの投資は必要です。それなりのコストが発生しますが、各種製品のレポートをうまく活用することで抑止効果を上げ、全社セキュリティ向上に繋げていけると考えております。今後このような運用に力を入れていきたいですね。」



# 株式会社沖縄銀行 様

## 未知のマルウェアにも対抗する 多層防御の中核を担う

振る舞い検知とは異なる強固なマルウェア対策「プロテクトキャット Powered by Cylance」



http://www.okinawa-bank.co.jp/

**業 種** 金融業 / 保険業  
**規 模** 1,123 名 (平成 30 年 3 月末)

### introduction

地域密着型金融機関として地域社会に貢献している株式会社沖縄銀行では、秘匿性の高い個人情報を数多く取り扱っている金融機関だからこそ堅持すべき、安全かつ信頼性の高いインフラ作りが長年取り組んできました。同行がさらなるセキュリティ強化策の 1 つとして取り組んだのが、未知のマルウェアへの対策でした。検証を重ねた結果、パターンマッチングのアプローチとは異なる、人工知能の技術を活用した AI アンチウイルス「プロテクトキャット Powered by Cylance」(以下、プロテクトキャット)を導入するに至った経緯を伺った。

### LanScope Cat

**管理台数** 2,432 台

**保有機能**  
IT 資産管理・操作ログ管理・デバイス制御・マルウェア対策

株式会社沖縄銀行  
取締役システム部長 高良 茂 氏 (中央)  
システム部 システム戦略開発グループ 上席調査役 上原 慶典 氏 (左)  
株式会社おきぎんエス・ピー・オー  
システム開発部 金融システム開発課 マネージャー 上原 浩輝 氏 (右)

#### ガイドラインで指摘された多層防御の重要性

金融機関を管理監督する金融庁では、信用秩序の維持や預金者保護の確保などを目的とした監督指針や業務ガイドラインとなる金融検査マニュアルなどによって、サイバーセキュリティに対する管理体制を強化するよう指導が行われていま

#### 未知のマルウェアでも実行前に検知できる仕組みとして注目

「従来型のパターンマッチングのアンチウイルスソフトでは、既知のマルウェアにはある程度、対処できても、未知のものには十分な対策とはなりません」と同部 システム企画管理グループ 上席調査役 上原 慶典氏。ゲートウェイ側でどれだけ多層的に防御しても、マルウェアなどが暗号化されてすり抜けてくることも考えられ、最終的にはEXEファイルが動くPC側で対策する必要があったと語ります。そこで注目したのが、エムオーテックス株式会社が提供しているLanScope Catの新機能であるAIアンチウイルス「プロテクトキャット (CylancePROTECT)」でした。

「マルウェアの振る舞いを検知して防御する仕組みも検討したのですが、その場合はマルウェアが実行された後にしか検知できません。しかしプロテクトキャットであれば、ファイルのDNAを解析して判断するため、実行前に検知できます」と評価するのは、同行のシステム開発から運用までを手掛ける

#### 未知のマルウェアへの対策が可能なプロテクトキャットの導入は周囲からの反響大

現在はおおよそ2,200台あるエンドポイントの中で、電子メールなど外部とのやり取りが発生する営業部門や融資部門などの一部からプロテクトキャットを展開。マルウェアについては検知モードが基本であり、ファイルを起動するたびにポップアップでアラート表示させる運用です。「セキュリティ意識を高めてもらう意味でも、現場へ通知することが重要」と高良氏。全体に導入が進んだ段階でマルウェアをブロックする自動隔離モードへの移行も視野に入れています。

クラウド上で管理できるメリットについても高良氏は言及。「PCのログがクラウド上で管理されているだけなので、情報漏えいの心配もありません。最近ではFinTechの影響もありクラウドを活用する機会も増え、クラウド自体が導入の障壁になることはありません」。また、おきぎんSPO 上原氏は運用管理面でもメリットが大きいと語ります。

す。近年では、大手の通信教育会社や旅行会社などで発生した情報漏えい事件などを背景に、より強固なセキュリティ対策が金融機関に求められてきているとシステム部 執行役員部長 高良 茂氏は現状を振り返ります。

株式会社おきぎんエス・ピー・オー (以下、おきぎんSPO) システム開発部 金融システム開発課 チーフ 上原 浩輝氏。

運用管理を行うおきぎんSPO 上原氏も当初は半信半疑だったものの、実際のデモで未知の脅威を検知する様を目の前で確認し、しかもネットワークに繋げることなく検知できたことに驚きを隠せなかったと当時を振り返ります。

プロテクトキャットの場合、日々のパターンファイルアップデートや頻繁なバージョンアップを必要としないため、ネットワークにおけるパフォーマンスの影響を最小限に抑えられます。おきぎんSPO 上原氏はこの点についても選定ポイントの1つであったと語ります。「従来のものはウイルス検索エンジンが変わるタイミングなどでプログラム自体を配信しなおす必要があり、ネットワーク全体に負荷を与えることも少なくありません。そういった煩雑さがないのは、ありがたいです。」

「サーバーの維持管理を行う必要がないだけでなく、プロテクトキャットを利用している他社が発見された脅威をどの様に対応しているのかが知ることが出来るのはクラウド利用の大きなメリット」と指摘。プロテクトキャットの管理者が利用できるテナントサーバーはクラウド上で提供されており、特定のマルウェアについて他社がどう対処しているのか、クラウド上でそのナレッジが共有できるようになっている。そのため検索エンジンなどでマルウェア情報を探するという行為自体がなくなったと高く評価しています。

未知のマルウェアへの対策が可能になったプロテクトキャットを導入したことで、周囲からの反響も大きいと高良氏は語ります。「金融機関同士で行われる情報交換会などで話をすると、プロテクトキャットが持つ検知率の高さに「嘘でしょ?」と皆さん驚かれます」。



# 北陸信用金庫 様

## シンクライアント端末もCatで管理！

プロテクトキャット導入で、内部・外部のセキュリティを実現！



https://www.hokurikushinkin.co.jp/

**業 種** 金融業 / 保険業  
**規 模** 151 名

### introduction

北陸信用金庫は創業以来、地域の方に親しまれる信用金庫として、事業や生活の繁栄のため、地域社会における金融面からのバックアップに努めてきた。近年では、「独自性発揮による地域の成長と価値創生をめざして」をメインテーマとして「支援力・営業基盤の強化」「経営力・内部体制の強化」「組織力・人材力の強化」「つなぐ力・総合力の強化」の基本方針のもとコンサルティング機能の向上や相談業務の充実など、お客様の的確なニーズの把握と適切な金融機能の提供に全力で取り組んでいる。2015年にLanScope Catを導入。現在は、石川県内にある14拠点のPC合計140台を本家で統合管理している。2018年に外部脅威対策強化を目的にプロテクトキャットを導入。その経緯と効果についてお話しを伺った。

### LanScope Cat

**管理台数** 140 台

**保有機能**  
IT 資産管理、操作ログ管理、WEB アクセス管理、Web フィルタリング・デバイス制御、マルウェア対策

業務統括部 担当部長 岡橋 博之氏 (右)  
業務統括部 調査役 土市 純也氏 (中央)  
業務統括部 副部長 山本 勝久氏 (左)

#### シンクライアントとファットクライアントの一元管理

個人情報保護に関する法律が施行され、世間でもセキュリティ対策について問われるようになり、北陸信用金庫でも、セキュリティ対策強化が課題となった。

「シンクライアントにも対応しているということで、2015年に念願のLanScope Catを導入しました。内部情報漏えい対策としての様々な機能はもちろんですが、レポート機能が充実していますので、これまで手がかかっていた作業時間がかなり削減できます。あとは、UIが良かったのも決め手となりましたね。他の製品との比較検討はせず、すぐに決めました。」と岡橋氏。

現在、石川県内に14の店舗を構えている北陸信用金庫だが、セキュリティ対策として最も重要視しているのは、各店舗で取り扱っている大量の機密データの管理だと言う。

「営業店舗で取り扱っている大量のデータは、最も気を付けて管理をしなくてはなりません。職員によるデータの持ち出しや、ミスによる情報漏えいが絶対に起きないようにする対策の

#### シンクライアント端末の外部脅威対策

世の中では、外部脅威対策のニーズが高まる中、北陸信用金庫でも以前から既存アンチウイルス対策ソフトを導入していた。しかし、そのソフトが動くたびにPCが重くなる苦情が出ていたという。

「仮想PCを使っている関係で、ウイルス対策ソフトのパターンファイル更新だけでもCPUに負荷がかかり、PCの立ち上がり時間に時間がかかっていました。この状況を何とかできないかと相談したところ、プロテクトキャット (CylancePROTECT)を紹介いただきました。実際に試して

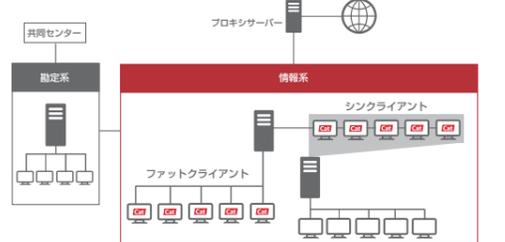
#### PC 負荷をかけずに未知の脅威を防御

シンクライアント端末を使っていることで、ネックになっていた外部脅威対策。AI型のアンチウイルスソフトを利用することで、PCに負荷をかけることなく、更に未知のウイルスも防御してくれるというのは、他の製品との価格差も気にならなかった理由の一つになったと岡橋氏は語る。

「仮想PCで基盤が弱いということもあり、最初のフルスキャンの負荷を考慮し、土日を使いながら何週間かけてスキャンを行いました。フルスキャンの結果、4つか5つ出てきたのでそれ

1つとして、シンクライアント端末を入れています。シンクライアント端末では、USBの書き込み不可にし、読み取り専用として外部にデータを持ち出しできないように設定しています。また、情報を紙で出力した場合でも、LanScope Cat でログとして記録が残っていますので、いつ、何のデータを、誰が、どれだけ出力したかを監視できるようにしています。」と岡橋氏。

LanScope Cat では禁止設定のほかに、怪しい動きがあった場合に知らせてくれるアラームも設定しているというが、アラームが表示されることはほとんど無いという。



みましたが、パターンファイル更新が不要なため、CPUが極端に上がることがなく、仮想PCでも十分動くことが検証できました。また、すでにLanScope Catを導入していたので、内部情報漏えい・外部脅威対策が一元管理できるという点にも惹かれプロテクトキャットの導入に至りました。プロテクトキャットを導入するにあたって、色々と情報収集をしましたが、その中には、安い製品もありましたが、安ければ良いというモノではないと思っていますし、実際にプロテクトキャットでできることや、LanScope Catの中で一元管理ができることは、管理者にとって非常に助かるものでした。(岡橋氏)」

らを手動で隔離。その後は、自動隔離設定にして運用していますが、ほとんど上がってくることはなく、安定しています。」

これまでにインシデントが発生したことはなく、LanScope Cat のアラームが上がることも少なく、プロテクトキャットでも大量の検知がされることもなかったことから、北陸信用金庫の経営陣含め職員全体で内部のセキュリティに関する意識が非常に高いのだろうと感じとれる。



# 岐阜県 土岐市 様

## 「自治体情報システム強靱性向上モデル」への対応

AI アンチウイルス「プロテクトキャット」で市民のマイナンバーを守る！



http://www.city.tokigijp/

**業 種** 公務  
**規 模** 850名 (2018年3月末現在)

### introduction

濃尾平野と信濃を結ぶ中間に位置し、古代から東山方面への中継地となり、近世には中山道と名古屋を結ぶ下街道や中馬街道など、交通の要所となっている岐阜県土岐市。明治維新後は日本の陶磁器生産地として栄え、2018年4月にスタートした朝の連続テレビ小説「半分、青い。」の舞台になるなど、注目を集めている。2015年より開始された「マイナンバー制度」に伴い、総務省はそれらを管理する地方自治体に対して、個人情報保護を目的とした「自治体情報システム強靱性向上モデル」を示し、各自治体はその対応に追われる中、積極的に取り組みを進めた土岐市。人口約6万人の情報を預かる土岐市総務部総合政策課 情報係長の加藤氏にその取り組みを伺った。

### LanScope Cat

**管理台数** 200台  
**保有機能** IT資産管理・操作ログ管理・Webアクセス管理・デバイス制御・マルウェア対策

総務部総合政策課情報係長 兼 新庁舎建設対策室 加藤 智英氏

### インターネット非接続環境における外部脅威対策

「自治体情報システム強靱性向上モデル」で示された「三層の構え」に基づき、ネットワーク環境を「1. マイナンバー（個人番号）利用事務系」「2.LGWAN（統合行政ネットワーク）接続系」「3. インターネット接続系」の3つに分離を行なった同市。「1. マイナンバー事務系」「2. LGWAN（統合行政ネットワーク）接続系」をインターネットから分離することで、外部からの攻撃やウイルス感染のリスクを下げることができる。しかし一方で、インターネットに繋がっていないため、パターンファイル更新が必要な従来のアンチウイルスの更新をインターネット経由で行えず、当時それらの運用が課題となっていたそうだ。

「マイナンバー事務系は市民の皆様の重要なマイナンバー情報を扱うため、セキュリティは3つの中でも最も高くする必要があります。そのため他のネットワークからは完全に切り離されています。LGWAN（統合行政ネットワーク）接続系もインターネット非接続環境ではありますが、こちらはLGWAN-

### 高い検知率とインターネット非接続環境への対応

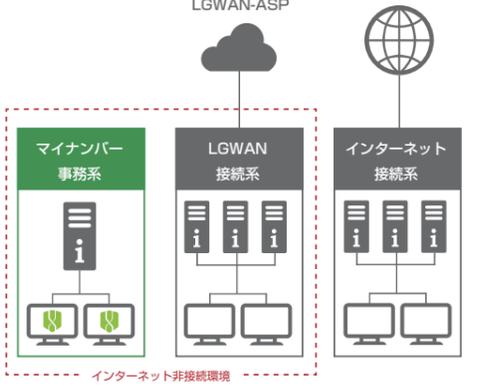
それまで利用していた従来のアンチウイルスソフトでは、インターネット非接続環境におけるパターンファイルの更新ができないことに加え、また日々誕生する新たな未知の脅威への不安があったという。そこで2016年に紹介を受けたことをきっかけに「AIアンチウイルス プロテクトキャット Powered by Cylance」の検討を始めた同市は、実際にその検知率の高さを目の当たりにし、それが決め手の1つとなり導入。「パターンファイルを更新して新しい脅威に対応していくという従来モデルは、裏を返すとパターンファイルを更新するま

### 専任者がいなくても運用できる LanScope Cat

プロテクトキャット導入後1年経ちますが、マルウェア感染などのインシデントは無く、問題なく運用出来ているという。「パターン更新の手間もないですし、Disconnected（※）モードに切り替えた為、管理者としては手放しで何もしてないのが実情です。また、PCへの負荷も無く、職員からの問合せやトラブル対応もありません。プロテクトキャットがPCに入っていればマルウェア対策は手放しで安心といったところでしょ

※ Disconnected モード：インターネット非接続環境下でも、検知・自動隔離が行える設定です。

ASPを利用することができるので、パターンファイルをLGWAN-ASPで更新するという運用方法が可能です。そこでマイナンバー事務系ネットワークのセキュリティ担保を目的に、前任の担当者が、パターンファイルを更新することなく新たな脅威にも対応できるプロテクトキャット（CylancePROTECT）導入検討を進めたと聞いています（加藤氏）」



では危険があるということですが、その点、プロテクトキャットは未知の脅威にも対応しているので、とても安心できます。引き継いだ当初はパターンファイルを更新しなくて大丈夫なのかと不安になりましたが、今は管理の観点でとても助かっています。土岐市は情報システム事務を職員2人という少ない人数で実施しており、負担が少ないのはとても助かります。導入してからエージェントのアップデートは行っていませんが、問題は何も起こっていません。（加藤氏）」

うか。やはり、マルウェア対策は高い検知率で、運用は手放しで出来るくらいのもので一番と感じています。また、自治体は民間企業に比べ情報システムの担当者が代わることも多く、引き継ぐ時間もありありません。そのため、引き継ぎを何もしなくてもマルウェア対策が継続して出来るのが理想だと思います。職員もマルウェアの脅威など気にせず仕事に専念できる環境が理想です。（加藤氏）」



# 宮古島市役所 様

## 101 拠点、1,800 台の一元管理を実現

ツール導入だけではない。「ITリーダー」育成で職員のリテラシー底上げを！



http://www.city.miyakojima.lg.jp/

**業 種** 公務  
**規 模** 730名 (平成30年4月現在)

### introduction

2005年に5市町村が合併して誕生した宮古島市は、大小6つの島（宮古島、池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島）で構成され、55,000人の市民が暮らしている。生活用水等のほとんどを地下水に頼っており、その現状から宮古島では地下水を守ることで環境作りのため、「エコアイランド宮古島」を宣言。また、毎年国際的規模のイベントである全日本トライアスロン宮古島大会、各種スポーツ団体の合宿等が行われ、島全体が「スポーツアイランド宮古島」としての1面も持つ。そんな宮古島市を支える宮古島市役所の情報セキュリティの取り組みについてお話を伺った。

### LanScope Cat

**管理台数** 1,800台  
**保有機能** IT資産管理、操作ログ管理、WEBアクセス管理、デバイス制御、マルウェア対策・ID 監査・メール管理・ISL リモコン

企画政策部情報政策課 課長補佐兼情報システム係長 池間 幸生氏 (右)  
企画政策部情報政策課 情報システム係 藪野 貴教氏 (左)

### 101 拠点、1,800 台の PC 管理一元管理に LanScope Cat

宮古島市は2005年に5市町村が合併したが、庁舎を残す「分庁方式」を採用し、現在もそれぞれの庁舎はもちろんそこでの役割・機能も残した形で運営している。また、それぞれの出先機関（例えば消防や港湾課、など）が庁舎とは別に存在し、さらに学校や幼稚園なども管理拠点の対象となるため、全ての機関を含めると拠点数は101拠点になるという。

「平成23年まではネットワークを各課バラバラで運用していたため、PC などの環境も様々でした。それを平成24 年度に情報政策課が取りまとめることになり、それと同時に管理ツールとしてLanScope Cat を導入しました」と語るの、企画政策部情報政策課 システム係 補佐 兼 係長の池間氏だ。

現在ネットワークは大きく「情報系」「教育系」「基幹系」「インターネット接続系」に分けられ、LanScope Catはこの中の「情報系」と「教育系」に導入している。情報系と教育系ネットワーク内の端末台数は合計1,800台で、それらを8名の職員で管理しているが、拠点数も多いため、それらの管理や日々の問い合わせ対応の負担は大きい。そのため、ヘルプデスクに一報が入ると、ベンダーさんに連絡

### ウイルス感染の原因をログから特定！

ネットワーク強靱化を行う前、年に数回ウイルス感染が発生したことがあったという。

「まだネットワークを分離する前のことです。ある拠点のPCがウイルスに感染し、そのPCのデータ半分が暗号化されてしまいました。幸いにも重要なデータは保管されていなかったことと、すぐにネットワークから切り離したため、それ以上被害が広がることはありませんでしたが、実はそのあと原因を調査す

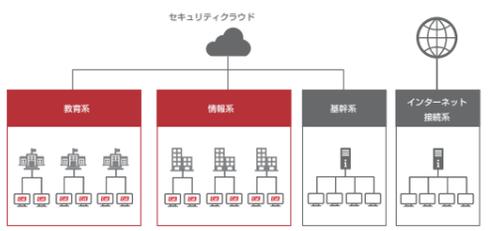
### 職員の IT リテラシー向上を目的に「IT リーダー」を育成

昨年から2026年に向け、「心かよう夢と希望に満ちた島宮古（みやーく）」を基本理念に「産業振興と雇用創出」の大きな計画を進めている宮古島市。

「宮古島市では2026年における将来人口の目標を50,000人とし、2021年までに情報通信関連企業の立地21社、雇用者数243人の増加を目標に掲げています。これ

をして近い方に向かってもらうという連携体制をつくり、日々の対応にあたっているそうだ。また、日々の対応の中でLanScope Catのリモートコントロール機能をよく活用していると語るの、同じく企画政策部 情報政策課 情報システム係の藪野氏。

「職員のITリテラシーに差があることもあり、何かあるとヘルプデスクに問い合わせが入りますが、電話だけでは正確な現状を把握することが難しいことが多くあります。そんなときにLanScope Catのリモートコントロール機能が本当に便利です。多いときには、1日10回以上使うこともあります。遠隔からでもトラブルが発生したPC を直接見ることができるので、解決までの工数を大幅に削減できています。（藪野氏）」



る際、LanScope Catのログのおかげで、半日もかからず原因特定をすることができました。」と藪野氏は当時を振り返る。

感染が始まった付近からログを遡ってみると、インターネットで掲示板を見ていたところから、別サイトに誘導され、そこで感染をしたという形跡が残っていたそうだ。そのさらに数年前も同様のウイルス感染が起こった際、まだLanScope Catを導入しておらず、原因を特定するのに3日以上かかったという。

までそのための調査などを行なってきましたが、今年度には施設の整備に入るところです。その後は積極的にサテライトオフィスの企業誘致などを行なっていく予定です。離島ということで、ITに疎い方も少なくはありませんが、「ITリーダー」を中心に底上げをはかり、市民の方が快適に、そして安心してくらせる、そんな街づくりをしていきたいですね」と池間氏は語る。



# 株式会社前川製作所 様

## 国内60拠点・3,000台のPC一元管理と強固なセキュリティを実現 お金では決して買えない『信用』を守る！



http://www.mayekawa.co.jp/ja/

**業 種** 製造業

**規 模** 4,563名  
(2017年12月末現在、グループ会社含む)

### introduction

1924年創業の前川製作所は、産業用冷凍機を中心にコンプレッサーなどを手がけ、産業用冷凍庫では国内トップ、冷凍船用冷蔵庫ではグローバルで80%のシェアを誇り、世界の産業を支えている。最近では最先端の冷凍技術で食品・エネルギー・冷凍冷蔵・環境分野に拡張するなど、単なる冷凍機メーカーを超えて、熱の総合エンジニアリング会社へと発展し、グローバルに展開しています。

現在は国内60拠点、PC3,000台を4名体制で管理をしているが、PCの一元管理と外部脅威対策強化を目的にLanScope Catを導入。その経緯と効果についてお話しを伺った。

### LanScope Cat

**管理台数** 3,000台

**保有機能**

IT資産管理・操作ログ管理・Webアクセス管理・デバイス制御・メール管理・アプリID監査・マルウェア対策・サーバーアクセス監視・不正PC遮断・リモートコントロール

コーポレート本部 ICT部門 情報化推進G 山本 真氏

**資産の一元管理と外部脅威対策が命題**

前川製作所では5年サイクルで、インフラを含めた見直しを行っており、ちょうどその見直しのタイミングでランサムウェアの被害に遭ったことから、IT資産管理と外部脅威対策の強化を目的にツール選定を行ったという。

いくつかの会社から提案を受けたが、どれも複数の製品を導入するといういわゆる多層防御がメインだったようだ。また、「複数の製品を入れてもトータル的にこちらの方が安い」という提案も受けたが、今まで使っていた従来のアンチウイルスソフトが安すぎたこともあり、コストではなく本当に止めら

**WannaCry もしっかり防御**

導入を決定した後も、他製品を併用した方がいいという提案もあったのだが、実際に入れてみるとPCが起動しなくなるトラブルがあったこともあり、すぐにプロテクトキャットの一本化に踏み切ったという。

台数が多いこと、またお客様先に常駐している社員もいたため、クライアントの展開には時間がかかったが、今はPCのライフサイクルとして、最初のキッキングの段階でクライアントをインストールすることで一元管理を行なっている。

**お金では買えない『信用』を守る**

では、LanScope Catの導入効果は具体的にどれほどと言えるのだろうか。

「正直、お金ではないと思っています。確かに導入コストはかかりますが、それよりもインシデントが起きたら・・・業務が止まるだけでなくお客様に感染させてしまう可能性もあります。そうすると、迷惑をかけるだけでなくこれまで築いてきた信頼関係が一気に崩れてしまいますから。購入するときは、どうしても金額が目が行きがちですが、取り返しのつかないことになる前に手を打った方がいいという考えです。交通事故で亡くなってしまったら、どうやっても生き返らせることはできませんからね。」と語る山本氏。

安全をお金で買うという言葉は悪いが、実際にそれで守れる『信用』は決してお金で買えるものではないからだ。

また、昨年監査を受ける際、LanScope Catを導入しこのように管理していると説明し、実際の管理画面も見せたこと

れるのかという性能面を重視したという。

「一度被害に遭ったこともあり、私たちが欲しいのは“今すぐ止められる”ということでした。安からう・・・の二の舞にはなりたくない。守れるならコストをかけるべきだ、という思いでした。実際には人の意識というところが重要になりますが、それを除いた部分で補えるとすれば、コストをかけてでもプロテクトキャット(CylancePROTECT)を入れるべきだということ役員からも承認を得ることができました。(山本氏)」

2017年5月に世界中で話題になったWannaCry (ランサムウェア)も被害に遭うことはなかったという。導入初期に全てのソフトの仕分けを行い、ホワイトリストを作成。その後は自動隔離モードで運用している前川製作所。基本的には、ソフトの購入もICT部門が担当しているため、新しいソフトを購入する場合は、一度インストールし検証。独自のCADソフトなどが引かかった場合でも、ホワイトリスト登録をしてから渡すようにしているため、業務影響は出ていない。

で、無事監査をクリアすることができたそうだ。

「取引先に対して、このようなセキュリティ対策をしていますと明示できるようになったことも良かったと思います。LanScope CatやCylanceがもっともっと有名になって導入していることがスタンダードになってくれたらいいなと思っています。(山本氏)」

現在の管理対象は国内だけだが、海外41ヵ国100拠点についても統合管理をしていく予定だ。



▲Catで海外拠点を管理するイメージ図



# 株式会社森創 様

## LanScope Catはセキュリティの証 プロテクトキャット導入でこれまで気づけなかった潜在リスクをゼロに。



http://www.moriso.jp/index.html

**業 種** 製造業

**規 模** 125名 (2018年6月現在)

### introduction

株式会社森創は1969年の創業以来、パチンコ盤面の役物の設計・開発、及び盤面全体のトータルデザインをはじめ、パチンコパチスロ機の木枠・筐体・特殊合板の製造販売を行ってきた。アミューズメント部品の分野に在ることから、「遊び心とクリエイティブな発想」この2軸を大切に、ものづくりに力を入れている。本年度は新規事業としてディスプレイ関連の事業部を立ち上げ新たな分野へ参入するなど、事業拡大にも積極的だ。そんな森創がLanScope Catを導入したのは10年以上前にさかのぼる。現在では名古屋と東京の拠点、合わせてPC330台を3名体制で管理している。2018年に外部脅威対策強化を目的にプロテクトキャットを導入。その経緯と効果についてお話しを伺った。

### LanScope Cat

**管理台数** 330台

**保有機能**

IT資産管理、操作ログ管理、WEBアクセス管理、デバイス制御、マルウェア対策

管理部 部長 竹内 佑介氏 (中央)  
管理部 人事課 プロフェッショナル 倉田 英昭氏 (右)  
管理部 人事課 リーダー 安藤 彰記氏 (左)

**LanScope Cat は会社のセキュリティ対策を示す証明書**

2007年当時、プロキシサーバーを入れて管理をしていたが、必要な情報が取れていなかったり、管理がしづらいこともあり、エンドポイント管理のセキュリティ対策としてLanScope Catを導入。近年、取引企業から情報漏えい対策についてどんな取り組みをしているか問われることも多くなっているが、その際に「LanScope Catなど情報漏えい対策ツールを導入している」という点は大きなポイントとなっているそうだ。

そしてこれまでの内部情報漏えい対策に加え、今回外部脅威対策の強化としてプロテクトキャット(CylancePROTECT)を導入。その経緯について部長の竹内氏はこう語る。

**プロテクトキャット導入でこれまでわからなかった潜在リスクをゼロに**

プロテクトキャット導入後、驚くほどAdwareが検知され、今まで気づいていなかった(すり抜けていた)だけで、いつ何がおきてもおかしくない状況だったという怖さを感じたと倉田氏は振り返る。

「今まで何も被害にあわなかったのが幸いでした。プロテクトキャットが入って、過去にないパターンがしっかりと検知されていたり、人がチェックをして「これは大丈夫だろう」と思ってしまうようなものもしっかり検知してくれるので安心感が違います。(倉田氏)」

プロテクトキャット導入のメリットはこれだけではない。導入以前は、何かあったときや、退職者がした場合にその部門から依頼を受けて、ログを活用しながら調査をしていたが、プロテクトキャットの強みである外部脅威対策と操作ログ機能の連携により、従来の操作ログ機能の活用頻度が上がったという。

「ウイルスの検知率ももちろんですが、何よりもLanScope



▲LanScope Cat 脅威検知クライアント一覧 周辺ログ画面

「これまでも外部脅威対策として、いくつかのアンチウイルスソフトを導入してきましたが、費用が安価であることが導入の決め手になった製品では、導入後に誤検知が多く業務を行う上で支障が出たこともありました。そんな中、プロテクトキャットを知ったのですが、これまで使っていた製品は、ウイルスが発生した後にシグネチャを作って対策するのに対し、プロテクトキャットはAIで既存はもちろん未知のウイルスも事前に検知・隔離してくれる。一つ先に進んだ製品であると感じました。安ければそれで良いというのは、以前に痛い目にあっているので、製品の更新のタイミングで、しっかり検証をしてプロテクトキャットに決めました。(竹内氏)」

Catの操作ログ機能と連携し、統合管理できるのは管理者の立場からすると非常にありがたいですね。これまではウイルス対策ソフトで検知した後、LanScope Catに切り替えて調査しないといけなかったが、今は1つの画面で感染経路まで特定できる。また、プロテクトキャットは検知したタイミングですぐにメールで知らせてくれるので、すぐにその前後のログを確認すれば、何かしら判断ができます。後から何日かさかのぼって全員分のログを確認することを考えると、時間にしてかなりの削減になりますし、解決や対策にむけてスピード感を持って動けることが大きいです。また、Webアクセス管理機能で原因となるURLも特定でき、今までよりもできることが増えたことは予想以上の効果でした。(安藤氏)」

導入直後のフルスキャンでは大量の検知があり、検証や仕分けに時間がかかったが、今では1日1件程度だという。

「検知されたものがウイルスか否かを私たちが判断して仕分けするのはハードルが高いと感じ、今はプロテクトキャットを信じて、自動隔離モードに設定しており、自動隔離されたものは、こちら側で検証して、問題なければホワイトリストに入れるという運用をしています。(倉田氏)」

自動隔離モードにすることで、業務への影響も心配していたが、現場からの不満もなく順調に運用できているそうだ。逆に、検知されたものをすべて自分たちで検証して判断をしているとかなり時間を要することになるので、助かっていると倉田氏と安藤氏は口を揃える。



# 株式会社エスケイエム 様

## LanScope Catで外部脅威・内部不正を対策

ミッションは「常に安全なIT資産を社員に提供し続けること」



https://www.skm-tco.jp/index.html

**業種** サービス業  
**規模** 900名 (2017年12月現在)

### introduction

建物のトータルマネジメントという視点で、清掃・設備メンテナンス・施設警備を主とした建物管理業務を中心に、不動産管理・仲介、建築・営繕にいたるまで高品質なサービスを展開し、顧客の生産性を高める環境づくりと資産価値の管理・保全に貢献を目指す、豊田自動織機グループの株式会社エスケイエム。

従来のアンチウイルスソフトだけの備えに不安を感じ、次世代型アンチウイルスソフトの導入を検討。社内のインフラ整備から業務システムの管理運用まで一手に引き受けている経営管理部 副部長 IT企画推進室 室長 柿内氏、IT企画推進室 鈴木氏にお話を伺った。

### LanScope Cat

**管理台数** 280台  
**保有機能** IT資産管理・操作ログ管理・Webアクセス管理・デバイス制御・マルウェア対策

経営管理部 副部長 IT企画推進室 室長 柿内 省三氏 (左)  
経営管理部 IT企画推進室 鈴木 啓氏 (右)

### 会社の規模が大きくなり、従来のアンチウイルスソフトだけに危機感

以前は最小限のシステム導入のみだったが、2013年頃から社内プロジェクトを立ち上げ、基幹システムをはじめとした情報システムを担う部隊として現在の情報システム部門を確立。現在は、全国20拠点にあるPCの管理をはじめ、インフラや業務システムの管理・運用を5名体制でカバーしている。セキュリティ対策としては、アンチウイルスソフトを導入していたが、社員のリテラシーのばらつきや、拠点数も多いことからインシデントが発生するリスクは高いと以前から危機感を感じていたという柿内氏。実際、過去に1台だけウイルス感染があったそうだ。

### 導入後の運用を意識した製品選定、決め手は"わかりやすいUI"

お客様に安心してサービスを提供するためにもセキュリティの強化は自社の最優先課題と捉え、既存アンチウイルスソフトは利用したまま、次世代型アンチウイルスソフトの導入を検討することにしたそうだ。

「具体的にはプロテクトキャットを含む2製品で比較検討を行いました。プロテクトキャットは最初の印象が良かったですね。とにかくUIが分かりやすい。逆に他方の製品はUIや考え方が難しく、最後までその点がネックとなりました(柿内氏)」

比較検討する中で、性能面についてはさほど差がなかったが、運用面では、他方の製品はメニュー構成が直感的ではな

### LanScope Cat で外部脅威・内部不正をまとめて対策

導入を決めた後は、導入前検証(POC)を行い、その後エージェントを展開。最初は各PCの検知結果を確認し、怪しいものかどうか都度判断、手動で隔離していくという運用をしていた。それが完了した現在は全てのPCを「自動隔離モード」に切り替えて運用。それにより業務側に影響が出ていることはなく全て順調に稼働しているという。

外部脅威対策以外にもLanScope Catを活用し内部不正対策の強化も積極的に行なっている同社。セキュリティツールを導入していることを社員にも告知したことで「PCの操作を見られている」という抑止効果は大きいという。一方で、業務上24時間PCを操作する拠点もあり、そのような拠点はWeb閲覧をホワイトリストで運用するなどしてリスク回避をしているそうだ。

「感染元はインターネット経由だったことまではわかりましたが、具体的な原因となる操作などを特定することはできませんでした。なので、的を射た再発防止対策を取ることは難しく、PCのフォーマット以外にできる事はありませんでした。(鈴木氏)」

プロテクトキャット(CylancePROTECT)であれば、操作ログを確認することで、何が原因で感染したのかを特定することができるため、いざという時には心強い存在と鈴木氏は語る。

くまたコンソールが英語ということもあり、誤操作の可能性が高い事を懸念したそうだ。

さらに、構築工程面では、他方の製品はサーバーの調達・構築・チューニングを含めると数ヶ月かかるという点に対し、LanScope Catのオプションとしてエージェント展開だけで済むというスピーディさもメリットに感じたそうだ。

「これまで使い慣れたLanScope Catの操作ログで原因追跡が容易にできることは非常に魅力的だったため、プロテクトキャットの導入を決めました(鈴木氏)」

以前はWebコンソールを定期的に見ていたが、最近ではアラームメールを設定し、通知が来たらログを確認するという運用を行っていると鈴木氏。アラームの中でも、Webアクセスやファイル操作などなるべく絞って設定をしているそうだ。

「20~30件のアラームが集中する日もあります。追跡が必要なのはしっかり見ますが、日々の確認という点で言うと1日5分程度なので、そんなに負荷は感じてないですね。Ver.9からはプロテクトキャットのアラームも他のアラームと同様、メール通知ができるようになると聞いているので、バージョンアップしたら脅威アラームについても同じ運用をしていきたいです(鈴木氏)」



# 株式会社ダスキン北陸 様

## LanScope Catでエンドポイントのセキュリティ強化と運用のスリム化を実現



http://duskinhkr.com/

**業種** サービス業  
**規模** 306名 (2018年7月現在、派遣スタッフ含む)

### introduction

株式会社ダスキン北陸は、1965年に創業以来、一貫して地域のお客様に快適空間を提案・サポートしてきた。「ビジネスを通して世の中の、より多くの人々に喜びのタネをまく」をモットーとし、一般家庭からオフィス、店舗、工場などの事業所、大規模施設まで、お客様への定期訪問を基本に、清掃用品・衛生用品のレンタル・販売を展開するほか、プロの清掃サービスや家事代行サービス、害虫駆除、介護・福祉関連事業、各種物品レンタルなど幅広い事業を展開、お客様の暮らしの中に「べんり」と「あんしん」をけている。個人情報保護法に対応するため、2013年にLanScope Catを導入。また2018年に外部脅威対策強化を目的にプロテクトキャットを導入。その経緯と効果についてお話を伺った。

### LanScope Cat

**管理台数** 171台  
**保有機能** IT資産管理、操作ログ管理、WEBアクセス管理、デバイス制御、マルウェア対策・ID監査・メール管理・ISLリモコン

クリーンケア事業部 情報管理課長 堀 浩一郎氏

### 個人情報保護への対応と複数拠点のPCの一元管理、Windows10移行にも活用

ダスキン北陸は、個人情報保護法に対応するため、2013年にLanScope Catを導入。それ以前にも同様の製品を導入していたが、管理コンソールのレスポンスが悪く、なかなか改善されない事などを理由に、LanScope Catにリプレースをしたという。

「LanScope Catは、管理コンソール(Webコンソール)が使いやすいですね。以前は1日のログを取得するのに、何十分もかかっていたものがほんの数分で取得できるようになりました。また、USBやDVDなどのデバイス制御や許可もよりストレスなく使ってもらえるようになりました。(堀氏)」

ダスキン北陸は北陸3県に28拠点あり、PC約170台を本社でまとめて管理をしている。拠点の数が多く、端末管理に工数がかかっていたが、LanScope Catで遠隔から正確なPCの管理ができるようになり、業務の効率化に繋がったそうだ。

### 未知のウイルスへの対応

LanScope Catで内部不正対策を行い、外部脅威対策としてはアンチウイルスソフトを導入していたダスキン北陸。しかしここ数年、標的型攻撃やランサムウェアなど新たな外部脅威が世間で騒がれるようになり、たとえ自分たちが注意をしても、ちょっとしたことでインシデントにつながってしまうことに怖さを感じていたという。会社や社員を守るため、未

### 内部不正・外部脅威対策をエンドポイントで実現

そんな中、エムオーテックスのセミナーでプロテクトキャット(CylancePOTECT)を知り、他の製品を併用せずに、未知のウイルスを含め99%以上防御してくれるという点に魅力を感じたという。さっそく社内のPC数台に評価版を使ってみると、よくないプログラムがいくつか見つかり、既存アンチウイルスソフトでは止められていなかった事に気づいたという。評価版を利用してすぐに、これだけのウイルスを検知してくれるプロテクトキャットに魅力を感じたが、他社の製品とは大きな価格差があった。

「正直、既存アンチウイルスソフトとプロテクトキャットでは価格に差がありました。でも、これは価格の問題ではないと思います。他の製品を導入しても、別の製品と併用するとすると、結局費用は高くなりますし、何よりもともと利用していたLanScope Catで、外部脅威対策までできるのは、管理者

「以前は、ツールとエクセルで二重管理を行っていましたが、今は、資産管理やログ管理などLanScope Cat1つで簡単に一限管理ができ業務改善に繋がりました。その他、今、社内のパソコンを順次Windows10に入れ替えています。その際にLanScope Catのファイル配布を使って基幹システム等のEXEを配布しています。時間もかからないですし、実行されたかどうかの確認も本社にいながらできるので、助かっています。」と堀氏。

ログ管理についても、積極的に利用している。操作ログは不正な動き知らせるアラーム設定をし、毎日Webコンソールから不正な動きがないかを確認しているがほとんどアラームは上がらないという。また、PCの電源管理機能を使い長時間稼働しているPCを確認するなど、勤怠や業務管理にもLanScope Catを役立てている。

知の脅威に対応できる製品を検討するようになったそうだ。「ここに至るまでに、未知のウイルスにも対応する外部脅威対策ツールをいくつも検討しましたが、「振る舞い検知でしっかり止まります」と言いつつも、「他のアンチウイルスソフト(既知を検知するもの)も併用してください。」と言われ、疑問を感じました。」と堀氏は語る。

としては嬉しいですね。」と堀氏。

プロテクトキャットの導入(エージェントの展開)は、LanScope Catの配布機能を使って何の問題もなく完了した。最初はPC数台に入れて、フルスキャンでAdwareが10個ぐらい見つかったというが、その後は、自動隔離モードに設定。検知される数はそれほど多くなく、運用面でも、特に問題は起きていないという。

「情報管理部門は3名いて、メインで私が担当しています。毎朝管理画面を確認しています。時々、社員から新しいソフトを入れたけど使えないと連絡が来ることもありますが、本当に必要な物は、連絡をもらってホワイトリストに入れる運用にしています。」と堀氏。



## 学校法人稲置学園 様

### 未知のウイルスへの対応に プロテクトキャットを導入

PC への負荷低減だけでなく、インシデント対応の時間・リソースも大幅削減を実現

#### ■ シグネチャ型のアンチウイルスソフトへの不安

大学・短大・高校・中学・幼稚園2園・法人の7セグメントで構成されている稲置学園。ネットワークは切り離しつつも、各セグメントをグループウェアをベースとしたシステムでつなぐなど業務を考慮された情報業務環境を整備し、それらを情報基盤センターが一元管理をしているが、2015年に起こった日本年金機構の不正アクセスによる情報漏えい事故をきっかけに、学園のセキュリティの見直しを行ったそう。

「あの事件が報道された後、本学は大丈夫なのかと議論になりました。当時、すでに旧来のパターンマッチングだけでは通用しないというケースがあり、ウイルス定義ファイルの配信にタイムラグがあることも、大きな課題と思っていました。そ

#### ■ 決め手は「検知率・シグネチャ更新不要・導入の容易さ」

検討を始めた当初はゲートウェイ製品の導入が念頭にあったが、ゲートウェイ経由以外からの感染も防ぐ必要があった。このためエンドポイント製品の導入へ設計を切り替えた上で、プロテクトキャットと他社の2製品を比較した。具体的には3つのポイントに着目したと井上氏は振り返る。

1つ目は、「既知はもちろん、未知のウイルスに対しても即時に検知ができること」。

この点については、実際に感染してもよいテスト環境を構築し、そこで新種の検体を実行させ検知できるかを比較した。このとき、プロテクトキャット(CylancePROTECT)は新種をもれなく検知したのに対し、もう1製品はOSに最初から入っているファイルまで誤検知したという。

2つ目は、「OS やアプリと競合しないか」ということ。「パターンマッチングの製品では誤った定義ファイルを配信されると、PCに影響を与えることがしばしばありました。また、製品

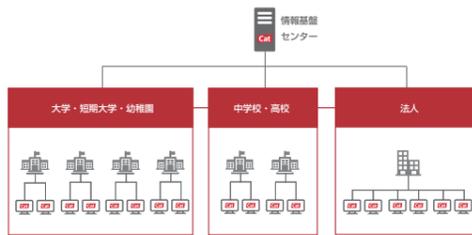
#### ■ インシデント対応の時間・リソースを大幅削減

プロテクトキャットを導入したことで、これまでかかっていたインシデント対応の時間・リソースを大幅に削減できたそう。

「これまで1つのPCで感染が発生した場合、PCを回収して分析、並行して、代替用PCの手配と現地配備。さらに並行して、ネットワークの通信記録などから感染の影響範囲の調査

で何とかして新種に対して時間差なく防げるソリューションはないかと検討を始めたのがきっかけです。」

そう当時を振り返るのは、法人事務部 情報基盤センター 課長 博士(工学) 井上 清一氏だ。



自体のアップデートも頻繁に必要ですが、頻繁な更新によってトラブルが発生する可能性があったため、なかなかアップデートできず手を焼いていました。プロテクトキャットはアップデートが非常に少ない(年に1~2回)点が、魅力的です」と井上氏。

そして3つ目は、「導入や運用が容易であること」。

従来の製品は、オンプレミスで管理用のサーバを立てていたが、使い続けると不調が増加し、再インストールをすることもしばしば。プロテクトキャットはクラウドベースのため、現在はこの悩みも解消できたそう。

また、既存製品との価格差についても「確かに既存製品と比較すると高価ですが、ゲートウェイ製品レベルの機能をエンドポイントへもれなく提供し、しかも、ゲートウェイ製品ではカバーしきれない学外でのPC利用やUSBデバイス等からの感染対策までも1つの製品ですべて実施できること考えれば、プロテクトキャットの費用はむしろ高くありません。」と井上氏は語る。

など、次々と職員がインシデント対応に拘束されてしまいます。情報基盤センターは5名のスタッフで運営していますのでこの負担は大きく、通常業務への影響が避けられません。しかし今では、プロテクトキャットによって感染自体をさせないことで、それをぐっと減らすことができ、大きなメリットの1つと感じています。」と井上氏は語る。



## 社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会 様

### プロテクトキャットは「最後の砦」

導入をきっかけに部門横断でセキュリティに取り組む体制と職員のセキュリティモラルUPを実現



http://www.shizuoka-wel.jp/

業 種 医療/福祉

規 模 1,209名(平成30年8月1日時点)

### introduction

市町村合併等を重ねて組織が大規模化し、事業も多様化していく中で、事業管理等のネットワーク化・システム化を図ってきた。以前はITに精通した職員の力量に頼っていたが、平成27年に情報システム委員会を設置し、法人内全体のシステムの管理やハード面・ソフト面について協議を行いながら運営、その取り組みの1つとしてプロテクトキャット導入を決めた総務部長 朝比奈氏(情報システム委員長)、総務部経理課 津坂氏(情報システム委員・システム担当)、森陰氏(情報システム委員・システム担当)にお話を伺った。

### LanScope Cat

管理台数 360台

保有機能

IT資産管理・操作ログ管理・Webアクセス管理・デバイス制御・マルウェア対策・リモートコントロール

総務部長・情報システム委員長 朝比奈 淳氏(中央)  
総務部 経理課 情報システム委員・システム担当 津坂 直史氏(右)  
総務部 経理課 情報システム委員・システム担当 森陰 亮介氏(左)

#### ■ 2度のウイルス感染から見えてきたこと

平成28年には、法人内で2度のウイルス感染が発生したという。1度目は8月にスパムメールのZipファイルを開けたことでウイルスに感染。ウイルスは亜種であったために当時利用していた既存アンチウイルスソフトでは検知することができず、ネットワーク監視を委託している運用会社から「不正な通信が行われている」という連絡をもらい発覚したという。

「この一件があり、その後参加したMOTEXのセミナーでウイルスの検体を持ち込んでその場で検知できるかを試していたのですが、検知できることを目の当たりにし驚きました(津坂氏)」

その後社内にはフリーメールの利用やスパムメールについて注意喚起を行ったが、残念ながら10月に職員宛てに届いた

#### ■ 決め手は資産管理ツールとウイルス対策ツールが連携できること

実は、当時は別の資産管理ソフトを導入していたが、ウイルス対策と資産管理ソフトが連携することで、効果的な運用ができるのではないかと考え、資産管理ツールの乗り換えも含め、資産管理機能を有するプロテクトキャットを導入することに決めたと森陰氏。

「以前導入していた資産管理ツールはログの量がとても多く、なかなか見られる量ではなかったため、あまり活用できていませんでした。これは導入後に活用する中で気づいたことですが、その点Catのログは必要なログだけが無駄なく取得されているので、とても見やすいですね。また今は何かあるとすぐに問い合わせができる環境もあり、積極的に使えています。(森陰氏)」

#### ■ ツールだけで解決できない職員のITモラル向上

これまでのやり方を変えると一時は不便になることもあり不満が出ることもあるが、外部環境等の変化に対して自分たちも積極的に変わっていかないと時代に取り残されてしまう、と強い決意をのぞかせる朝比奈氏。

「不満に合わせていると結局レベルを下げることになりま

す。スパムメールのZipファイルを開封したことで再びウイルス感染が発生。この二度の感染を受けて、改めて職員のモラルの重要性と、何らかのシステムで対策をしていくことが必要だということを感じたと朝比奈氏。

「そんな中、セミナーに参加した二人から持ち込んだ検体がプロテクトキャット(CylancePROTECT)で検知できたこと、また検知率の高さや亜種ウイルスにも対応しているということで、導入をすべきだと強い要望があり、私も早急に手を打たねばと思い導入検討を始めました。我々のような公益的な組織は新しい領域に対する導入等の意思決定に時間がかかってしまうのですが、この件については万が一の際には多大な損害を私たちが被るということ等、導入の必要性を説明し、スピーディに決定を行いました。(朝比奈氏)」

2017年8月にプロテクトキャットを導入してまだ間もないが、すでに効果はかなり出ていると朝比奈氏。「既存のアンチウイルス製品から置き換えたことで、いままでも検知されなかったウイルスを検知することができ、情報システム担当者たちも非常に驚いていました。」

「私は定期的にログを確認しています。社会福祉法が改正されたことで、民間企業と同じようにしっかりと内部統制を図っていく必要があり、各部門に監査に入る前にログを活用するなど、とても役に立っています。(津坂氏)」

を含めてITリテラシーを上げていくのかということが大切だと感じています。そのためには幹部が一枚岩になり、組織を引っ張っていくことが重要だと思いますが、そこにもまだ課題を感じているところです。まずは私たちが中心になり階層に合わせた研修の中に情報システムのテーマを入れ、繰り返し職員に伝えていき、最終的に全員で取り組む風土を作りたいです。(朝比奈氏)」



http://www.seiryu.jp/

業 種 教育

規 模 334名(2018年5月1日現在)

### introduction

2018年10月に創立86年を迎える稲置学園の歴史は、昭和7年10月に北陸明正珠算簿記専修学校として金沢市彦三に創設したころにさかのぼる。現在では、大学・短大・高校・中学・幼稚園2園を構え、約5,000人の学生・生徒・児童が在籍し、これまでに元プロ野球選手の松井秀喜さんやサッカー選手の本田圭佑さんを輩出するなど、文武両道を実現している。そんな学園全体の情報システムを支えているのが、法人事務部 情報基盤センターである。今回、外部脅威対策・マルウェア対策を目的にプロテクトキャットの導入を推進した井上氏にその経緯と選定のポイントを伺った。

### LanScope Cat

管理台数 300台

保有機能

マルウェア対策

法人事務部 情報基盤センター 課長 博士(工学) 井上 清一氏



## どろんこ会グループ 様

職員1,000人以上にiPhoneを貸与、「うちのこ」アプリが保育事業のIT化を推進！ LanScope AnのDEP・VPP機能を利用して管理体制を構築

### どろんこ会グループ

http://www.dorankobiz/

業種 医療・福祉

規模 1,863名

### introduction

どろんこ会グループ（社会福祉法人どろんこ会、株式会社日本福祉総合研究所、株式会社ゴーエスト、以下どろんこ会）が運営する保育園。どろんこ=土をテーマに作られた園庭で、子どもたちが畑仕事や田植え・稲刈りの体験、飼育しているヤギや鶏などの動物と直接触れ合うことで「にげん力」を身に付ける「体験型保育」を実践している。どろんこ会は保育業界では初めてとなる大きな取り組みとして2017年春から園で働く職員（保育・調理師等）にiPhoneの貸与を始めた。iPhoneの導入に至った背景や用途、またiPhoneの運用・管理方法について広報部の廣瀬智哉氏にお話を伺った。

### LanScope An

管理台数 1,200台 (iOS)

#### 「うちのこ」アプリで保育事業のIT化を推進

保育事業の領域では、園での子どもの様子や出来事を保護者へ連絡する手段として、「連絡帳」やお手紙・提示物をはじめとする紙媒体の利用が一般的だ。どろんこ会が運営する保育園も例外ではなかったが、この現状を廣瀬氏は次のように語る。

「確かに紙ベースの帳票は、作成・編集が簡単です。しかしデータの可視化や二次利用という面では限界がありました。日々の保育の中にはたくさんの情報が詰まっています。これをIT化することで業務効率を高め、保育サービスそのものの質の向上が実現できると考えていました。「うちのこ」アプリはこれら保育に関わるさまざまな情報を、保育者と保護者・家

#### LanScope Anで1,200台のiPhoneを一元管理！

一方で課題となったのは、これらのツールを利用するために保育者一人ひとりに貸与されるiPhoneの管理・運用だ。先述の通り、アプリ側でもセキュリティ対策を講じているとはいえ、iPhoneの紛失対策は必須。またアプリの配信や保育者がよく利用するWebサイトのショートカットの配信など紛失時以外の管理体制も構築する必要があった。そこで廣瀬氏はiPhone導入の決定と同時に管理ツールの導入を検討した。

「弊社ではPC管理ツールを導入しています。その中にMDM

#### DEPとVPPで実現したアプリのサイレントインストールとセキュリティ強化

どろんこ会ではDEP (Device Enrollment Program) を利用してiPhoneにLanScope AnのMDMプロファイルを展開した。DEPを採用した理由として、廣瀬氏は次のように話す。

「自社開発アプリやApp Storeアプリのサイレントインストールを実現するためには、まず端末を監視モードに適用する必要があります。当初はMac端末にiPhoneを1台ずつ接続し監視モードに適用することも考えましたが、工数を考えると現実的ではありませんでした。そのため端末のアクティベーション時にMDMプロファイルの自動インストールと監視モードの自動適用を実現できるDEPを利用しようと考えました。」（廣瀬氏）

端末を監視モードに適用し、VPP (VolumePurchaseProgram) アプリ「デバイスベース方式」の配信機能を利用することで、自社開発アプリだけでなく、App Storeアプリのサイレント

庭間で共有できるサービスです。」（廣瀬氏）

「うちのこ」アプリは保育園と家庭をつなぐコミュニケーションツールという役割のほかにも園児の様々な様子を一人一人確認して保育者が記録する。こういったさまざまなデータの入力業務がクラウド上で行えるようになっており、業務の工数を削減するとともに改ざん防止や万が一の紛失リスクもなくなるなど、正確かつ安全な情報管理ができるようになった。またアプリ内部には園児の大切な個人情報が含まれている。個人情報が含まれるデータへのアクセス制御など、セキュリティ対策にも余念がない。

オプションがあったので、当初はそのオプションの利用も検討していました。ですがApple IDを持たなくても各端末にアプリをプッシュインストールできる機能や、災害時の職員の安否確認などにも活用できるメッセージ・アンケート機能など、同様の他社サービスと比較して上回るメリットをLanScope Anに感じました。弊社が求める要件をほぼ満たすことに加え、プラスアルファの機能も十分利用できるものでしたので、導入を決定しました。」（廣瀬氏）

インストールも実現できる。

従来のアプリ配信機能は、Apple IDとパスワードを入力し、サインインが必要だったが、VPPのデバイスベース方式の配信機能では、Apple IDの設定に依存することなく、アプリの配信からインストール、またバージョンアップまで完了できるため、廣瀬氏は利用を決めた。

DEPを利用することでセキュリティ面が向上する点も見逃せない。紛失時はリモートロックやワイプに加えて、より強固な紛失対策として、ロック画面への連絡先情報の表示や位置情報の強制取得などを行える「紛失モード」を実行できる。どろんこ会のMDMの導入目的である万が一の紛失対策と端末運用・管理体制の構築を実現できたと廣瀬氏は話す。



## 株式会社コーエン 様

全国80店舗のiPad管理にLanScope Anを採用「1ヶ月30分」で実現する効果的な管理方法とは

### coen

https://www.coen.co.jp/

業種 卸売業 / 小売業

規模 673名

### introduction

株式会社ユナイテッドアローズの子会社として、現在、全国80店舗にファッションブランドを展開する株式会社コーエン（以下、コーエン）。ECサイトなどで「coen」のブランドロゴを目にしたことがある人も多いだろう。「easy chic ～気軽に洒落を楽しもう～」をコンセプトに、アメリカ西海岸のリラックスしたカジュアルスタイルを提案。手頃な価格でありながらも程よく時代性を取り入れた上質なベーシックアイテムは、男性、女性問わず幅広い層から支持を集め、毎年5店舗から10店舗を新規出店している。そして、2014年12月から新たな店舗戦略として「iPadの活用」をスタートさせた。

### LanScope An

管理台数 88台 (iOS)

#### お客様とのコミュニケーション手段としてiPadを店舗で活用

iPadの導入を推進したのは、販売促進部 販売促進課 課長代理 野邊氏だ。

「店舗での接客ツールとしての活用とペーパーレス化を目的としてiPadの導入を決めました。接客業務では主に商品カタログやオンラインサイトを、また社内業務としては店舗運営に必要な各種資料をiPad上で閲覧できるので、印刷費を減らす

#### 導入の決め手は、管理コンソールの使いやすさとLanScopeブランドへの信頼

iPadの店舗活用を支えるのは、店舗支援部 情報システム課 課長代理 馬場氏だ。馬場氏は、iPadを各店舗に配布するまでの設定業務から日々の管理業務を一手に担っている。

全国の店舗で利用するiPadを効率的にそしてセキュアに管理するために馬場氏が導入したのが、MDM (Mobile Device Management) 製品「LanScope An」だ。

#### 全国80店舗のiPad管理にかかる時間は「1ヶ月たったの30分」

現在、馬場氏は1人でiPadの管理業務を任されている。もちろん他の業務も兼務しているため、iPadの管理業務に多くの時間を割くことはできない。そこで、LanScope Anの「稼働管理」レポートや「アラート機能」を活用することで、時間をかけない効率的な管理を実現している。

「iPadの管理業務にかかっている時間は、1ヶ月30分程度です。予めLanScope Anで、パスコードや空き容量、アプリ利用に関するセキュリティポリシーを設定しているので、違反している端末のみを確認するだけで運用をまわすことができます。」（馬場氏）

3日に1回程度、業務の空き時間に未稼働端末がないか「稼働管理」レポートを確認し、全国80店舗のiPadがきちんと利用されているかどうかをチェックしているという。またiPadの位置情報も取得しているため、万が一、店舗から持ち出された際などにも「移動履歴」画面からiPadを追うことができるので安心だ。

さらに、iPadのOSバージョン管理にもLanScope Anを活用している。在庫状況・売上実績を確認できる業務アプリは

ことができコスト削減にも繋がると考えました。」（野邊氏）

現在、コーエンは全国80店舗にiPadを配布し、その活用方法は実に様々だ。ユナイテッドアローズが開発した業務アプリを導入し、在庫状況や売上実績をiPadで確認している。お客様がお探しの商品が在庫切れだった際に、近くの他店舗にないかをiPadでもリアルタイムに確認できるようになったという。

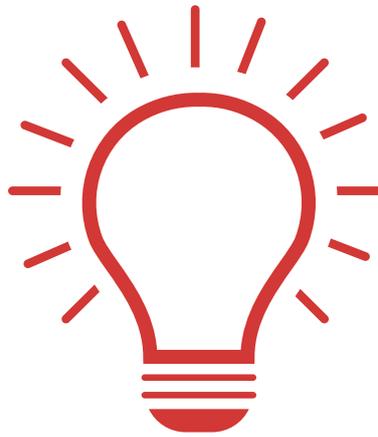
「以前からLanScopeブランドについては、知っていました。LanScope Catは、IT資産管理ツールとして導入実績が多い有名な製品なので信頼性がありました。また実際に3製品ほど体験版を利用し機能を試しましたが、管理コンソールの使い勝手が一番良かったので、LanScope Anの導入を決めました。」（馬場氏）

In-houseアプリであるため、最新のiOSバージョンがリリースされたタイミングで、毎回動作検証を行い、動作に問題ないことを確認してからiOSのアップデートを許可する運用を行っている。そこで許可が下りる前に誤ってアップデートしている店舗がないか、馬場氏は「資産情報一覧」画面のグルーピング機能を活用し、iPad全台のOSバージョンを確認している。

「管理画面を1台1台クリックしてOSバージョンを確認するのは非常に面倒ですが、LanScope AnならOSバージョンでグルーピングするだけで、88台のiPadをOSバージョン毎に並び替えてくれます。動作検証前に誤って最新バージョンにアップデートした店舗がないか簡単に確認できるので、便利ですね。」（馬場氏）

またiPadのパスコード設定に関するポリシーもLanScope Anから適用し、会社のルールに則ったパスワードが設定されるように監視できる体制を構築できていると馬場氏は話す。

情報システム課 馬場氏 (左)  
販売促進部 販売促進課 野邊氏 (右)



**MOTEX**

Secure Productivity

エムオーテックス株式会社

本社	〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-12-12 エムオーテックス新大阪ビル	TEL : 06-6308-8980
東京本部	〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70 品川シーズンテラス5F	TEL : 03-5460-1371
名古屋支店	〒460-0003 名古屋市中区錦 1-11-11 名古屋インターシティ3F	TEL : 052-253-7364
九州営業所	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 1-15-20 NMF 博多駅前ビル2F	TEL : 092-419-2390

TEL : 0120-968995 受付時間 9 : 30 - 12 : 00、13 : 00 - 17 : 30 (月~金曜日)

※携帯電話・PHSからは06-6308-8981をご利用ください。

E-mail : [sales@motex.co.jp](mailto:sales@motex.co.jp) URL : [www.motex.co.jp](http://www.motex.co.jp)

初版 : 2018年10月発行

●お問い合わせは当社へ